

茨城県 大子町 様

オリジナルテーマオプションで公式アプリ化 魅力発信でまちの取り組みを活性化したい

茨城県北部、福島県に隣接する大子町は、人口約18,500人、県内3番目の広い面積のうち約8割を森林が占める、かつて林業で栄えた町だ。以前からIT化に意欲的にとり組んできた同町が、スマートデバイス向け公式アプリを使い、まちの情報をプッシュ通知で発信する事業をスタートする。

テスト運用を終え、本格的なサービス稼働を前にして、アプリ導入に至った経緯や、今後の展望などについて、事業を主管する同町まちづくり課のお二人にお話を伺った。

モバ支所 オリジナルテーマオプション

モバ支所の機能はそのままに、貴市区町村様イメージのデザインでオリジナルアプリとしてリリースする「**テンプレート型サービス**」です。

自治体様専用アプリとしてご提供

安心・安価なテンプレート型

初期費用 300,000円～
月額利用料 40,000円
※価格は全て税抜です。



お客様プロフィール



茨城県久慈郡の北部に位置する。人口約18,500人。※平成28年2月現在

【大子町役場】
茨城県久慈郡大子町大字大子866番地

導入の背景

「日本一の福祉のまち」を目指して

「大子町では、『日本一の福祉のまち』を目指して、様々な取り組みを行っています。平成28年度からは地元の高校に給食を提供したり、子育て支援の為に住宅を建設したりと、独自性の高い取り組みも多く、行政サービスの利用を促進する意味では、情報発信が重要なキーワードとなります。」

また、大子町には日本三大瀑布のひとつに数えられる『袋田の滝』があり、町政においては、観光振興も重要な取り組みのひとつだ。

「袋田の滝は、冬期間の凍結などで全国的にも知名度があり、特に関東圏からの来訪者が多い観光地です。それ以外にも、さまざまなイベントなども数多く企画しており、町内外を問わず情報発信を行う事で、町全体の活性化へと繋がればと考えています。」

課題である人口減少の対策としても、まちの魅力発信でプッシュ型で発信する意義は大きい。



まちづくり課 主事
神長 充 氏



まちづくり課 主事
本間 健弘 氏

導入の経緯

費用面と機能面のバランスでイメージが湧いた

モバ支所販売代理店であるITベンダーの提案で、導入への動きが具体化した。

「他社からもアプリの提案はありましたが、費用的に高額であった事と、アプリが使いやすいと思えなかった事もあり、必要性を感じるまでには至りませんでした。その点、モバ支所はアプリの操作性が良く、費用も安価でしたから、具体的な検討に入るまで時間はかかりませんでした。シンプルで親しみやすいところが良かったですね。」

また、お知らせの登録方法についても効果を期待されている。

「通知の登録も簡単なので、これから実施する職員向けの研修も、私達だけで説明する予定です。職員のスキルを問わず使えるので、ルールを作り、運用の標準化さえ図れば、各課からの沢山の情報発信に繋がれると考えています。」



アプリ
(お知らせ一覧)



管理サーバ
(メイン画面)

導入のポイント

「オフィシャル感」と「見つけやすさ」

モバ支所には、自治体共通のアプリで利用する標準版があるが、大子町は、独自アプリとしてリリースできる「オリジナルテーマオプション」を選択した。

「モバ支所の機能は申し分なかったのですが、やはり標準版だとアプリの名称から覚えて頂くこととなります。それよりは、『大子町』というアプリ名の方が、発信される情報にオフィシャルなイメージもつきましますし、インストールする時に『大子町』で検索する事が

できます。」

アプリ利用促進のため、特にリリース当初はサービスの認知度が大きな鍵となる。その上で、信頼性はもちろん、アプリの場合は『手軽に利用できる』ことも重要だ。同町の『公式アプリ』と銘打つことで、これらの効果を十分に期待できると、まちづくり課のお二人は考えている。



袋田の滝イメージキャラクター
たき丸



日本三大瀑布のひとつ
袋田の滝

運用のポイント

アプリ利用者拡大のために

アプリ利用者のターゲットは、町民と観光客だ。その中でも、まずは町民に絞って、周知を行っていく。

「とりあえず、町職員のスマートフォン利用者は、全員インストールをお願いします。」

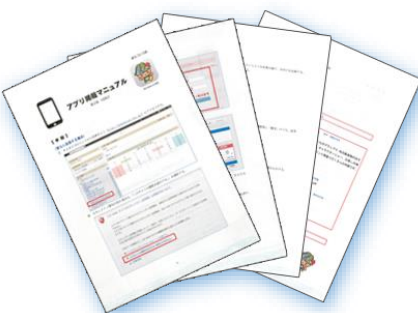
職員が率先して利用していくことで、アプリへの理解を深めてもらう目的だが、その理解が町民に対しての普及促進にも繋がるという考えだ。

月1回発行の広報紙にも、アプリの情報を掲載した。サービス開始の記事掲載はもちろんだが、当面は、継続して表紙にアプリの案内文を掲載する予定だ。



町の情報アプリでお知らせ iOS/Android 対応 大子町公式アプリ
App Store/Google play から無料でダウンロードできます。

広報だいに 平成28年3月号



まちづくり課制作の「アプリ掲載マニュアル」
A4サイズ4ページにわかりやすくまとめられている。

誰もがタイムリーな情報発信を

モバ支所には、登録された通知内容を上位者などが承認を行う機能がある。しかし、同町は当面はこれを使用せず、職員全員が即時発信が行える環境を選択した。

「アカウントは全職員に発給。登録された通知内容は、直属の課長補佐級以上の上司にその場で見てもらい、複眼チェックを行います。」

アカウントが職員毎に発給されるため、承認経路の設定を行うと、人事異動の場合の更新業務工数が大きくなる恐れがある。

「事前に予定できる通知は、書面で上長の承認を得ます。」

スピードを優先することで、情報の有用性が上がり、これが住民の満足度に繋がる。更に、煩わしさを軽減する事で、運用の活発化を図る。

全庁で取り組むという本気の意欲が、全ての流れで「使いやすさ」を追求した運用ルールを生んでいる。

まちづくり課では、モバ支所標準のマニュアルとは別に、職員が利用する上で必要な部分だけを『アプリ掲載マニュアル』にまとめた。庁内のローカルルールに合わせた内容は、早期に職員の理解を得るために、簡潔でわかりやすいものとなっている。

想定より需要が高かった「ごみ機能」

「導入当初はあまり意識してなかったんですけどね。」

モバ支所のごみ機能について、初めはおまけ機能程度にしか考えておらず、情報発信を中心に検討が進められた。

「アプリをインストールした方から、ごみ機能についての反響が大きく、驚きました。実際、使ってみると本当に便利なんですね。」

ごみ機能は、住んでいる地区の予定に合わせてごみの収集日を通知する。曜日の決まっている種類のは忘れないが、収集回数の少ない種類のごみは、出すのを忘れ

がちだ。

「これなら、町民のみなさんにも沢山使って頂けますね。」

ごみ機能は日常的に使用でき、町民のほとんどが活用できる。

そして、単なる情報発信アプリとは違い、生活に密着した機能を活用する事で、アプリ利用促進につながる事が可能となる。

同町では、年度末に全戸配布するごみカレンダーにも、アプリ紹介の内容を盛り込み、利用者拡大を図る予定だ。



ごみの種類ごとに次回の収集日が表示される。収集日の前日と当日には、ポップアップで通知が届く。

今後の展開

メルマガからアプリへ

「1日に3件程度のお知らせを出したいですね」

福祉や観光に限らず、さまざまな情報発信をして行きたいと語る社長主事と本間主事。

メルマガジンの発信サービスも持っているが、今後はアプリでのプッシュ通知に置き換えていく考えだという。

セキュリティの観点からも、メールアドレスの収集や管理には注意が必要となる。個人情報取得を必要としないモバ支所を利用することで、不要なシステムやリスク対策にかかる費用も削減されていくだろう。

また、個人情報の登録は、利用者がアプリを継続して使用するかの分岐点となる場合がある。その点、原則実名登録のSNSなどに比べ、ハードルが低く設定されている事は、大きなポイントである。

地域おこし協力隊も参加

同町には、平成28年3月現在、8名の『地域おこし協力隊』が在籍している。

「これからは、協力隊のメンバーからも、イベントなどの情報発信をしてもらうつもりです。」

豊富なアイデアでモバ支所の活用方法を模索されながら町の活性化を願うお二人には、笑顔が溢れていた。



無料でご利用いただけます。
今すぐインストール！！

大子町公式アプリ
iOS/Android 対応

